

APRICOT2023/APNIC55 参加報告書

慶應義塾大学 石原 匠

March 24, 2023

1 概要

本稿は 2023 年 2 月 20 日から 3 月 3 日にかけてフィリピン・マニラにて開催された、インターネットの運用技術に関するカンファレンスである『APRICOT2023/APNIC55』の参加報告書である。会議は会期前半に実施される “Workshop Days” と後半に開催される “Conference Days” の 2 部で構成されるが、支援プログラムでは会期後半に開催される “Conference Days” のみが助成対象となっている。報告書では、まず参加セッションと概要を述べその中で特に印象に残ったセッションの感想を述べる。その後、カンファレンス全体の所感を述べたあと、参加して得られた経験を今後どう活かしたいかについて述べ、最後に参加支援プログラムに対する所感を述べる。

2 参加セッション

本カンファレンスでは以下のセッションに参加した。

1 日目

- MANRS Community Meeting
- Opening Ceremony and Plenary
- Social Party

2 日目

- RPKI Tutorial - ROV Hackathon: Part 1
- RPKI Tutorial - ROV Hackathon: Part 2
- APNIC Panel - Satellite broadband in the Asia-Pacific: technology and policy
- APNIC IPv6 Deployment

3 日目

- APNIC Routing Security SIG

- APNIC Open Policy Meeting 1
- APNIC Open Policy Meeting 2
- NOG Reports
- Meet the APNIC EC Social

4 日目

- APNIC AGM1
- APNIC AGM2
- APNIC AGM3
- Closing Plenary
- APRICOT 2023 Closing Social

以下、参加したセッションの中で印象に残ったセッションの概要を記す。

2.1 MANRS Community Meeting

本セッションは、MANRS メンバーだけでなくルーティングセキュリティに関心のある全ての人に向けたセッションである。ルーティングセキュリティの課題に対して、現在どのような対策が行われているか、どのような対策がこれから検討されていくのかについての紹介があった。ルーティングセキュリティの課題について、RPKI等の技術がなぜ必要なかを改めて知ることができた。

2.2 RPKI Tutorial - ROV Hackathon: Part 1, Part 2

本セッションは、RPKI について簡単な背景や用途などについて簡単に復習を行い、ハンズオンでは主に Relying Party Software のインストールとオリジン検証を行うことに焦点を当てて行なった。国内で同様のハンズオンを受講はしてきましたが、今回のセッションで改めて RPKI の必要性や設定方法について再確認をすることができた。また、講師の Aftab 氏とも簡単な会話であるがセッション後に議論を交わすことができた。

2.3 APNIC Routing Security SIG

本セッションは、グローバルなインターネットルーティングの安全性を確保するための運用上の問題点やベストプラクティスを議論するためのプラットフォームを提供することを目的としている。RPKI, IRRd など、ネットワークオペレーターと密接に関連する、より広範なインターネットルーティングのセキュリティトピックについて議論も行われた。RPKI, IRRd, RRDP などの技術に対して、ネットワークオペレーターはどのようなことを望んでいるか、それらの技術がどのような影響を与えるかについてのフィードバックをセッションの中で得ていた。

2.4 APNIC Open Policy Meeting 2

本セッションでは、いくつかのプロポーザルに対して発表者と参加者でディスカッションを行い、最後に承認をとるというものであった。特に印象に残ったものは、IP アドレスのリースに関するパネルディスカッションである。各パネリストが白熱した議論を行っていた。

2.5 NOG Update

本セッションでは、他地域に存在する NOG (Network Operator's Group) がどのような活動をしているかを紹介し、情報共有を行うものである。私は、昨年7月に函館で開催された JANOG50 と1月に山梨で開催された JANOG51 にスタッフとして参加した経験がある。しかし、他の国でも同様に固有の NOG があり、それぞれが特色をもち活動しているということを本セッションに参加するまでは知らなかった。どの国の NOG も活発に活動しており、機会があれば海外の NOG のカンファレンスにも参加してみたいと感じた。

3 カンファレンス全体の所感

私自身、今回の APRICOT2023/APNIC55 が初めての海外カンファレンス参加であった。参加前は言語の壁に対してや技術的なディスカッションを理解できるかの不安があったが、実際に参加してみると不安を感じていたほどのことはなかった。カンファレンスを通して、アジア・太平洋地域のインターネット運用に関係する取り組みやポリシー、最前線の議論を間近で感じることができた。また、会場の周りで IX の方々がピアリングの交渉をしているのを見かけたり、実際にお話を聞くことを通してインターネットがどのようにして繋がっているのかを改めて体感することができた。今回 APRICOT2023/APNIC55 に参加し、将来このような場で活躍できるような人材を目指したいと思いが芽生えた。

4 今回の経験を今後どう生かして行きたいか

今回カンファレンスに参加して、申し込み時目標としていた国外での技術動向・情報の収集と同じ技術や領域に興味・関心のある人との交流を達成できただけでなく、ハンズオン講師の方への簡単な質問や具体的な議論内容についても学ぶことができた。加えて、セッションの他に開催された Social イベント等を通して世界各国の様々な方と交流をすることもできた。今まであまり自身の英語には自信がなかったが、拙い英語でも意外とコミュニケーションが取れることを学んだ。2023 年は IETF, APNIC, IGF と大きなカンファレンスが日本で開催される予定である。今回得た経験を活かし、それらの会議でも多くの方々と交流や意見交換をできればと思う。また、将来的にも今回のようなカンファレンスで活躍できる人材になりたい。

5 参加支援プログラムに対する所感

参加支援プログラムに対する所感として、日本出国時から帰国時まで非常に有意義な時間を過ごすことができたと感じている。私自信、国内外問わずカンファレンス等に参加することが好きで、国内のカンファレンスには自費でいくつ参加をしていた。しかし、海外のカンファレンスは学生という立場である以上、金銭的なサポートがない限り参加することが難しくなかなか参加できずに学生時代を過ごしてきた。今回このような機会を頂けたことは、自分にとっては願ってもない好機であった。また、会期中も夜ご飯のセッティングや移動のサポートなどをしていただけて、より有意義に会議を過ごすことができた。このような機会を与えてくださった参加支援プログラムの委員および協賛団体の関係者の皆様に感謝申し上げます。